

編集後記

午歳にちなんで馬と植物との関係を見てみよう。ウマ(馬)の名のつく植物を拾ってみた。和名ではウマノアシガタ、ウマゴヤシ、ウマノミツバ、ウマスゲ、ウマノスズクサと数種しかなく、馬の別名駒(コマ)でコマクサ、コマツナギと2種。人と馬とは古くから密接な関わりがあったにもかかわらず意外と少ない。このうちウマノアシガタは根生葉の形が馬の蹄に似ていることから。ウマゴヤシは牧草として導入され帰化植物化したもので良質の牧草で馬を肥やす草ということからついた名といわれる。また、高山植物のコマクサ(駒草)は花の形が長く馬の顔に似ていることから。コマツナギ(マメ科の低木)は茎が丈夫で駒(馬)を繋いでおけるという意からつけられた名である。樹木ではウマグリ(馬栗)というのがある。トチ餅で有名なトチノキの仲間、西洋から導入され街路樹としてよく植えられている別名マロニエのことで、果実が馬のように大きいことからウマグリの名がついたのかと思われるが、実は英語で Horse Chestnut とよばれていたのを直訳して名付けたというのが真相のようである。如何にも明治時代の名付けとかなづける。

ところで方言名ではどうだろうと調べたら、ウマという名のついた植物はおおよそ90種ある。馬と生活を共にし、馬を愛した昔の人達が、馬が喜んで食べる草を探してエサとして与え、それが草の呼び名となったものと想像される。例えば方言名でウマノボタモチというのがありそれはクズ、アザミを指し、方言名のウマノオコワはクズ、スギナ。方言名のウマノゴハンはコウゾリナ。方言名のウマノアズキはクサフジといずれも栄養価が高く、馬が好んで食べる野草である。変わったものではドクダミが方言名ではウマクワズと呼ばれている。ドクダミは十薬ともいわれ十の病気に効能のある薬草とされているが、臭いがきつく、馬が好んで食べないことからついた名と思われる、方言名でウマコロシと呼ばれるキツネノボタンは有毒植物である。こうして方言名をみると昔の人達が長い経験によって確かめながらつけていった名と想像される。野草のおおよそ90種にウマという名詞のつく方言名があることは、人と馬との関わりが如何に深かったかをあらためて認識した。

今年は馬年。馬力を出して苦境を乗り越えたいと願うものである。 (7)

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

平成14年2月発行
植調第35巻第11号

定価420円(送料270円)
(本体400円、消費税20円)

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新成印刷(株)